

損益計算書の概要

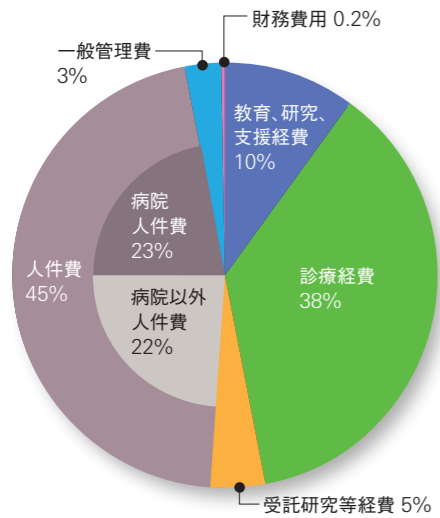
損益計算書は、事業年度内に徳島大学が実施した事業等により発生した全ての費用と収益を記載することによりその運営状況を明らかにしています。

経常費用	2年度	3年度	増減
業務費	463.1	485.8	22.7
教育経費	19.4	20.7	1.3
研究経費	30.9	28.6	△ 2.4
診療経費	172.3	186.5	14.2
教育研究支援経費	2.7	2.5	△ 0.2
受託研究等経費	19.2	24.3	5.0
人件費	218.6	223.3	4.7
一般管理費	12.2	11.7	△ 0.5
財務費用	1.0	0.9	△ 0.1
経常費用合計	476.4	498.5	22.1
臨時損失	2年度	3年度	増減
固定資産除却損	0.4	0.1	△ 0.3
損害賠償費	0.5	0.0	△ 0.5
臨時損失合計	0.9	0.1	△ 0.8
当期総利益	2年度	3年度	増減
当期総利益	16.4	17.2	0.8

注) 単位未満を四捨五入しているため、必ずしも合計及び増減は一致しません。

経常費用構成 (令和3年度)

経常費用合計 498.5億円



【経常費用の概要】

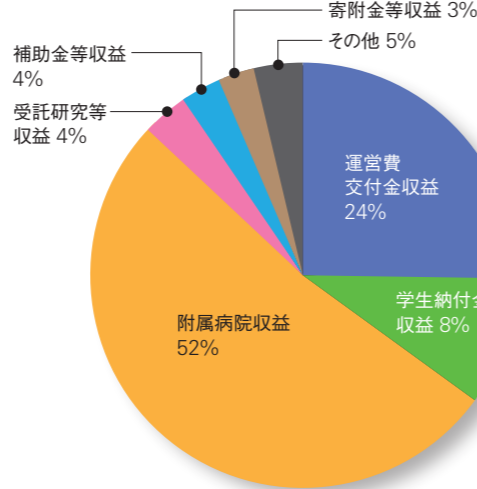
- ・診療経費の増は、医薬品費及び診療材料費等の増加によるものです。
- ・受託研究等経費の増は、消耗品費、備品費等の増加によるものです。

経常収益	2年度	3年度	増減
運営費交付金収益	119.6	120.2	0.6
学生納付金収益	41.3	40.6	△ 0.8
附属病院収益	257.0	270.3	13.3
受託研究等収益	19.2	24.6	5.4
施設費収益	2.5	3.0	0.6
補助金等収益	20.6	22.2	1.7
寄附金収益	14.5	12.7	△ 1.8
資産見返負債戻入	11.0	11.6	0.6
雑益	6.9	6.6	△ 0.2
経常収益合計	492.5	511.9	19.4
臨時利益	2年度	3年度	増減
その他の臨時利益	0.7	1.6	0.9
目的積立金取崩	2年度	3年度	増減
積立金取崩額	0.5	2.3	1.8

(単位：億円)

経常収益構成 (令和3年度)

経常収益合計 511.9億円



【経常収益の概要】

- ・附属病院収益の増は、手術件数の増加等によるものです。
- ・受託研究等収益の増は、科学技術振興機構等からの受入額の増加によるものです。
- ・補助金等収益の増は、新型コロナウイルス感染症に関連した補助金の受入額の増加によるものです。

すが、経常費用（二年間大学を運営するための費用）については、診療経費の増加などにより、令和2事業年度と比較して22.1億円増加しております。経常収益（大学の運営に伴う収益）については、附属病院収益の増加などにより、令和2事業年度と比較して19.4億円増加しております。

特に令和3事業年度にあっては、令和2事業年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響が懸念されておりましたが、自己収入の確保、予算の効率的執行に努めるとともに、国や地方自治体等の各種補助金を活用することができたため、財務状況に大きな支障が生じたことなく運営することができました。

また、大学運営に係る財政基盤の大部分を占める国からの運営費交付金は、法人化翌年の平成17年度から毎年約1億円ずつ減額されております。この状況に対応するため、大学改革等における予算の獲得及び自己収入の増加に取り組んでおりますが、安定した経営を行っていくためには、更なる経費の節減を図るとともに、積極的な外部資金の獲得に努めていくことが重要であると考えております。

貸借対照表の概要

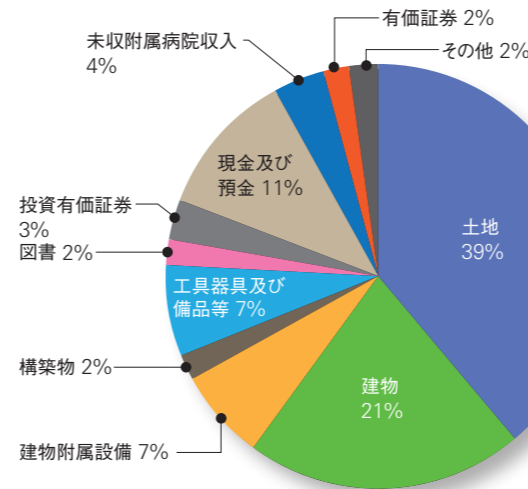
貸借対照表は、決算日(令和4年3月31日)における徳島大学の全ての資産、負債及び純資産を記載することによりその財政状態を明らかにすることを目的としています。

資産の部	2年度	3年度	増減
土地	446.1	446.1	0.0
建物	236.9	235.6	△ 1.3
建物附属設備	73.7	76.6	2.9
構築物	19.6	19.2	△ 0.4
工具器具及び備品等	73.3	78.5	5.2
図書	26.9	27.0	0.1
投資有価証券	39.4	39.6	0.2
現金及び預金	116.7	121.0	4.4
未収附属病院収入	52.4	50.6	△ 1.8
有価証券	5.0	20.0	15.0
その他	18.8	18.9	0.1
資産の部合計	1,108.7	1,133.1	24.4

注) 単位未満を四捨五入しているため、必ずしも合計及び増減は一致しません。

資産構成 (令和3年度)

資産合計 1,133.1億円



【資産の概要】

- ・建物の減は、総合研究棟(歯学系)改修工事等の完成による資産価値の増加を、減価償却費が上回ったことによるものです。
- ・工具器具及び備品等の増は、病院医療設備及び教育研究設備の整備によるものです。

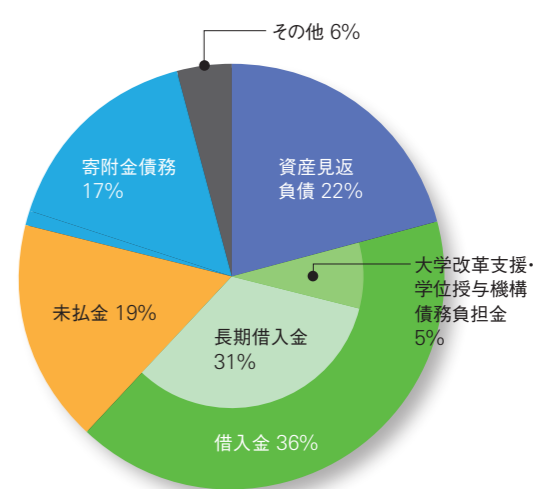
令和3事業年度の財務状況で

負債の部	2年度	3年度	増減
資産見返負債	102.4	100.1	△ 2.3
借入金	175.1	164.2	△ 10.9
未払金	79.5	89.4	10.0
運営費交付金債務	2.6	0.0	△ 2.6
寄附金債務	73.8	76.7	2.9
その他	20.0	26.9	6.9
負債の部合計	453.4	457.4	4.1
純資産の部	2年度	3年度	増減
資本金	467.3	467.3	0.0
資本剰余金	69.9	80.5	10.6
利益剰余金	118.2	128.0	9.7
純資産の部合計	655.3	675.7	20.4
負債及び純資産の部合計	1,108.7	1,133.1	24.4

(単位：億円)

負債構成 (令和3年度)

負債合計 457.4億円



【負債の概要】

- ・資産見返負債の減は、資産取得によって生じた債務を減価償却費及び除却費が上回ったことによるものです。
- ・運営費交付金債務の減は、中期目標期間最終年度の会計処理によるものです。

透明性のある財政・運営

財務レポート

徳島大学は、本学を支えてくださるステークホルダーの皆さま方に透明性のある財務情報を提供し、大学の財政状態及び運営状況について明らかにするとともに、ご理解をいただくことが重要な責務の一つと考えております。

この財務レポートは、徳島大学の現在の財務状況をできるだけわかりやすくお伝えするため、令和3事業年度財務諸表をもとに作成いたしました。

平成16年4月、徳島大学は他の国立大学と同様に法人化し、国から独立した経営体としての運営を行うこととなり、令和3事業年度で法人化後18年が経過しました。

令和3事業年度における教育・研究活動等の取組

博士課程学生の挑戦的・学際的な研究支援

徳島大学では、大学院博士課程又は博士後期課程の学生が、挑戦的・学際的な研究に専念できるような研究環境を提供するとともに、多様なキャリアパスの形成に向けた支援を行うため、以下の事業を実施しています。

ひかりフェローシップ

医光融合分野で活躍できる若手研究人材の育成を目的とした大学フェローシップ創設事業

支援額：年間220万円(令和3事業年度 支援総額約1,800万円)

うずしおプロジェクト

学際的イノベーション人材として様々な分野で活躍できる博士人材の育成を目的とした

次世代研究者挑戦的研究プログラム

支援額：半年間110万円(令和3事業年度 支援総額約2,600万円)



研究支援体制の強化による外部資金の獲得

受託研究収入 約17.5億円

共同研究収入 約6.4億円

競争的資金や共同研究費等の外部資金のより一層の獲得と、知財戦略に基づく特許料等収入の拡大を推進するため、研究支援・産官学連携センターにおいてURAの増員やプロジェクトチームの新設等、研究支援体制の強化を進めており、令和3年度の受託研究収入は過去最高額の約17.5億円、共同研究収入も過去最高額の約6.4億円となりました。

新型コロナウイルス感染症に関する取組

新型コロナウイルス感染症に関連する令和3事業年度の主な取組としては、以下の事項が挙げられます。

(1) トリアージスペースの整備

令和3年9月に、災害・感染症トリアージ棟が完成しました。この災害・感染症トリアージ棟では、1階部分を発熱患者のトリアージスペースとするほか、研修にも使用するなど、多目的に施設の利用を行っています。また、2階部分は防災倉庫として使用し、災害時トリアージ等において迅速な連携をとれるスペースが整備されています。



災害・感染症トリアージ棟「附属病院多用途トリアージスペース整備事業」
事業費約2億3,400万円

(2) 生活困窮学生への緊急生活支援金支給

新型コロナウイルス感染症の影響により生活に困窮している学生に向けて、緊急生活支援金として、1名あたり3万円、延べ696名の学生に対し、総額約2,100万円を徳島大学基金より支援しました。

(3) 各種補助金の交付

令和3年度においても、国や地方公共団体等から新型コロナウイルス感染症関連の各種補助金の交付を受け、新型コロナウイルス感染症の対策や研究等に活用しました。

財務情報の詳細



Otsucleの詳細



徳島大学基金の詳細



しかし、徳島大学の財政基盤を支える国からの運営費交付金については、毎年減額されている状況であり、本学を取り巻く環境は一層厳しさを増しています。このような状況のもとで安定した経営を行うためには、更なる経費の節減、徳島大学基金をはじめとする自己収入の増加、クラウドファンディング(Otsucle)を活用した研究資金の確保及び競争的資金の獲得に努めるとともに「知を創り、地域に生き、世界にはばたく徳島大学」として、教育・研究・社会貢献及び診療の各分野にわたり、その充実と不断の見直し・改善を進めて参りますので、今後ともご支援、ご協力の程、よろしくお願いいたします。

【おひき】

令和3事業年度は、第3期中期目標・中期計画期間(平成28事業年度～令和3事業年度)の6年目(最終年度)にあたります。

本事業年度の徳島大学は、新型コロナウイルス感染症による財務状況の悪化が危惧されていましたが、各種補助金の活用、自己収入の確保、予算の効率的執行に努めた結果、経常収益が19.4億円増加し、それに伴い当期総利益が0.8億円増加する等、当初想定していた財務状況の悪化に至ることはありませんでした。